

第1学年外国語科（英語）学習指導案

1 単元名 Lesson 6 El Sistema: The Miracle of Music (UNICORN English Communication I : 文英堂)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は Part 1 (163 語), Part 2 (171 語), Part 3 (166 語), Part 4 (171 語) の計4パートからなり、ベネズエラ独自の音楽教育システム「エル・システマ」について取りあげる。ベネズエラは、社会主義国で産油国でもあるが、現実には貧富の差が大きい国である。その貧しさゆえに、多くの青少年が犯罪に手を染める。「エル・システマ」独自の音楽による青少年教育システムと、そこで育った音楽家たちの証言から彼らの人生と音楽との深い結びつきを紹介する。現在の生徒にとっては、日常生活とかけ離れている世界かもしれない。しかし、近い将来さらに急速にグローバル化が進み、遠い世界ではなくなる。このような世界の社会的問題について理解し、自分の考えを持つことはさらに大切になっていくだろう。また、青年たちの生き方やアブレウ博士の生き方を知り、自分のこれからの生き方を考える良い題材である。言語材料としては、中学校既習文型・文法である「受動態」と「SVO + to do」の復習及び高校新規文法項目である「過去完了形」と「SVOC(=現在分詞, 過去分詞), SVOC(=原形不定詞)」を取りあげる。表現活動 における中学校既習文法を運用する力も伸ばしていきたい。

(2) 指導観

これまでの実践では、基礎的な英語で適切に説明したり、自分の意見を述べたりする練習が十分でなかったと考える。4技能を総合的に育成するコミュニケーション活動を取り入れるため、グループ活動を軸に、Retelling や意見を伝える英作文、スピーチを行ってきた。しかし、英文をそのまま再現したり、原稿を読み上げたり暗唱したりするだけでは、知識としてある英語を十分に運用することになっていなかった。その場で言い換えて説明したり、原稿なしで自分の考えを口頭で伝えたりして発信するには、論点を明確にし、基礎的な英語を用いて即興で話す力を伸ばす必要があると考える。そこで、本単元では、与えられた話題に対する考えを広げたり、与えられた情報の概要まとめたりして論点を明確にする Pre-Speaking 活動を通して、即興で話す力の向上をねらう。また、話す活動における学習者の気づきを促すために振り返り活動を工夫する。これらの活動によって、発信する内容の論点を明確にし、中学校で学んだ基礎的な英語を使って、即興で話す力を育てることができると考えた。

3 単元の目標

- ペアワークやグループワークに積極的に参加し、相手の意見を尊重しながら自分の意見を主体的に伝えようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- Concept Map を用いて、読んで得た情報を口頭で伝えることができる。(外国語表現の能力)
- 一連の出来事を読み、Q&A を通して内容を理解することができる。(外国語理解の能力)
- 受動態や SVO + to do の既習事項、及び過去完了形や SVOC の用法について理解している。(言語や文化についての知識・理解)

4 指導計画 (10 時間扱い : 本時は第 5・6 時)

時	目標	学習内容・活動	観点				評価 (方法)
			関	表	理	知	
1 2	・エル・システマの始まりとその仕組み、創設者アブレウ博士について概要をつかみ、concept map を用いて、Retelling をすることができる。	・本文のQ&A ・本文のRetelling活動		○	○		・定期 ・検査 ・観察

3 4	・貧しさから罪を犯してしまった少年がエル・システムと出会い人生を変えた話について概要をつかみ, concept map を用いて, Retelling をすることができる。	・本文のQ & A ・本文の Retelling 活動		○	○		・定期 考査 ・観察
5 6	・家族の理解や協力を得てエル・システムで学ぶ子どもたちの話について概要をつかみ, concept map を用いて, Retelling をすることができる。	・本文のQ & A ・本文の Retelling 活動		○	○		・定期 考査 ・観察
7 8	・エル・システムの社会的な影響とアブレウ博士の音楽の社会の関係に対する考えについて概要をつかみ, concept map を用いて, Retelling をすることができる。	・本文のQ & A ・本文の Retelling 活動		○	○		・定期 考査 ・観察
9	・単元全体を読んでアブレウ博士の音楽に対する思想や彼の生き方について, 自分の意見を述べるができる。また, 自分たちには社会にどのように貢献できるか考え, 相手に伝えることができる。 ・文法事項について理解を深め, 用法を理解することができる。	・ Short Speech ・英作文 ・文法問題	○		○		・観察 ・ワークシート ・定期考査
10	・エル・システムに関連する話 <i>Paper Violins</i> について概要をつかむことができる。	・速読 ・本文の T F			○		・定期考査

◎ 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標 (第1学年)

話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
学校や身の回りの話題について, 自分の考えをメモを用いながら即興で伝えることができる。ペアやグループで, 質問したり, 答えたりすることができる。	学校や身の回りの話題について, 読み手にわかりやすい表現で, 40語程度で簡潔に書くことができる。	簡単な表現や, 身近な話題について聞き, メモを取りながらその概要を理解することができる。教科書の本文の背景知識を活用しながら, 簡単表現の物語や説明文を繰り返し聞いて, その概要を理解することができる。	教科書の本文を各段落内の要点に注意して読んで, 概要を理解することができる。外国学習者向けに易しい英語で書かれた説明文や物語の要点を理解することができる。

5 本時の指導

(1) 目標

- 家族の理解や協力を得てエル・システムで学ぶ子どもたちの話について概要をつかみ, **Concept Map** を用いて, **Retelling** をすることができる。

(外国語理解の能力, 外国語表現の能力)

(2) 準備・資料

教科書, ワークシート, ワードカウンター, CD, CDプレイヤー, タイマー

(3) 展開

学習活動・内容	支援の手立て・評価
1. 4人グループを作る	・指定したグループを作るよう指示する。
2. Short Speech を行う (1) スピーチの演題について, Brainstorming を1分間行う。 (2) Brainstorming で作成した Spidergram を用いて, ペアでお互いに Short Speech をそれぞれ1分間ずつ行う。聞き手は, ワードカウンターを用いて相手の語数を計測する。 (3) 別のペアで同様に (2) を行う。	・生徒が活動している間, 黒板を使って自分の Spidergram を作成し, アイディアが出てこなかった生徒に, その中からアイディアを探してもよいと伝える。 ・机間指導を行い, 生徒の活動を観察する。

<p>3. 本文の概略をつかむ</p> <p>(1) 本文を2回聞き、概要文の空所を補充する。</p> <p>(2) この概要文にタイトルをつける。</p> <p>(3) グループで答えを共有する。</p> <p>(4) クラス全体で答えを共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書は閉じさせ、聞いて情報をつかむようにさせる。その際、つづりは気にせず内容の把握に焦点を当てるよう伝える。 机間指導を行い、モデルになるタイトルを探し、発表する準備をさせる。
<p>4. 本文の内容を理解する</p> <p>(1) Q&Aに目を通し、聞き取るポイントを確認する。</p> <p>(2) 本文を聞き、Q&Aの答えを書く。</p> <p>(3) グループで答え合わせをし、次に聞き取るべき箇所を把握する。</p> <p>(4) もう一度本文を聞き、答えを完成させる。</p> <p>(5) グループで、考えを共有する。</p> <p>(6) クラス全体で答え合わせを行う。</p> <p>(7) 各自教科書を使って、短時間(2分程度)で答えや綴りを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書は手順(3)終了まで閉じさせ、聞いて答えを探すことを予告する。(4)では理解状況に合わせ、教科書を参考にしてもよいと伝える。 机間指導を行い、支援が必要になると思われるグループを予想しておく。 机間指導を行い、支援が必要なグループにはヒントを与えたり、隣のグループに意見を聞いてもよいと伝える。 1班1つの問いを担当するよう伝える。問題を読み上げ、そのあとに答えを読み上げるよう指示する。 答えが聞き取れない場合やつづりが不明な単語がある場合には、1分間で答えを教科書から探すよう伝える。
<p>5. 重要語句・表現・文法事項を理解する</p> <p>(1) グループで空所に入れる答えを考える。</p> <p>(2) クラス全体で答えを共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を使って、グループで協力しながら答えるよう指示する。 2, 3の活動で発表していない班に答えを述べさせる。
<p>6. 音読練習をする</p> <p>(1) 教科書を見ながらCDをチャンクごと聞き、後に続いて音読する。</p> <p>(2) 教科書を見ながらCDをチャンクごと聞き、顔を上げて(教科書を見ないで)後に続いて発音する。学習到達度の高い生徒は、教科書を見ないで、CDをチャンクごとに聞き、後に続いて音読する。</p> <p>(3) 各自、ワークシートまたは教科書を見て、できるだけ別の表現に言い換えながら音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 意味を考えながら音読するよう伝える。 生徒と一緒に音読し、言いづらいチャンクを最後まで言えるよう支援する。 意味を考えるために、集中する必要があることを伝え、間違っても積極的に挑戦するよう支援する。 1語でも多く自分の言葉に言い換えて、音読するよう支援する。
<p>7. 情報を整理する</p> <p>(1) Concept Map を3分で作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> Retelling するために必要な必要最低限の情報を抜き出す。 <p>(2) グループ内で Concept Map を共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> Concept Map を作るのが難しいと感じている生徒には、例を参考にしして作るよう支援する。 お互いの Concept Map のよいところを知り、自分の Map をよりわかりやすいものに改善できるよう支援する。
<p>8. Retelling を行う</p> <p>(1) 作成した Concept Map を使って、ペアでそれぞれ Retelling を90秒ずつ行う。聞き役の子は、話し手の語数を数え、終わったら一言コメントを英語で伝える。</p> <p>(2) 別のペアで2回目の Retelling を90秒ずつ行う。この時には、Concept Map を用いてもよいが、教科書の表現をそのまま再生するのではなく、なるべく自分の言葉に置き換えて情報を伝える。(1)同様、聞き手は話し手の語数を数える。</p> <p>(3) Retelling 活動の振り返りを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> Retelling 活動で2回目に組んだペアで、お互いの評価を行い、その後、自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> コメントは短くてもいいので、必ず伝えるよう指示する。 発話語数を数えることと他者評価をすることが同時にできない生徒には1回目は語数を数え、2回目は評価ができるようにという指示をする。 できるだけ自分の言葉に置き換えられているか机間指導をして確認し、必要なら支援する。 <p>① Concept Map を用いて、Retelling ができたか。(観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> できるだけ詳細なコメントを記入するよう伝える。 自己評価では、ペアの評価やコメントを見て活動を振り返る。 次の活動に生かせるよう、具体的に記入するよう伝える。